

研究結果報告書

所属 吉林大学法学部
役職 副教授
氏名 潘 紅艷

【研究テーマ】

中国の個人年金制度と日本のiDeCoとの比較研究

【研究結果】

中国高齢化が進む中、少子化と高齢化はますます進展し、長期化していく可能性があり、その結果、老後の社会保障の資金供給と需要がマッチしない状況が生じる可能性がある。

中国個人年金制度は既に全国に拡大し、期待される点が多くある。持続的な発展を実現するため、日本 iDeCo を参考にできる。

1 全国民が参加できるようにする

参加者の年齢制限は 18 歳から 65 歳に設定し、個人年金を受け取る年齢を 60 歳から 75 歳までにする。

2 設計時にインフレ対策を制度に組み込む

個人年金制度の加入期間が長いため、その間にインフレが発生することは予測できず、対処対策を制度に組み込む必要がある。

3 投資心理に合わせる対策を講じる

A 投資する前に投資心理テストが必要。

参加者のリスク耐性が異なり、投資心理テストを行い、その結果に基づいて、リスク耐性に適した高リスクまたは低リスクの金融商品を選択する。

B 投資・資産運用商品をリスクの程度に分類。

投資・資産運用商品は、リスクの高低に応じて三つの段階に分類し、テストの結果を考慮に入れ、適切な商品を選択する。

C プラットフォーム上に投資啓蒙教育のコーナーや投資商品の説明、リスク教育のセクションを設ける必要がある。

D 無能力、投資・資産運用を放棄する特別サービスチャネルの開設を提案。

投資・資産運用に参加できない、放棄する人々のために、アカウントに蓄積された資金は、統一的にプラットフォームが銀行に委託し運用し、収益と元本が参加者のアカウントに戻る。

4 個人年金の管理組織とウィンドウの設定

政府部門が監督し、特定の機関を管理機関として委託し、金融機関の店舗やネットワークプラットフォームを活用することを検討する。

5 “公助”、“互助”、“自助”の三方のリソースを統合

「公助」（政府が関与する社会保障）、「互助」（社会団体および企業が参加する企業年金）、「自助」（国民が参加する個人年金）の三方のリソースを統合し、年金保険制度を協調し、高齢化社会に安心して対処できるように備えるべきである。

研究成果の公表について(予定も含む)

口頭発表(題名・発表者名・会議名・日時・場所等)

題名:「中国の個人年金制度の立法に関する問題研究」

発表者名:潘紅艷

会議名:多層全方位な老後保険制度の構築と革新的な発展に関する中国のセミナー

日時・場所:2023年9月26日、中国人民大学

口頭発表(題名・発表者名・会議名・日時・場所等)

題名:「全国民統一する年金制度の立法に関する問題研究」

発表者名:潘紅艷

会議名:中国法学会保険法研究会2023年年会

日時・場所:2023年12月30日から12月31日まで、中国武漢大学

論文(題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等)

題名:「日本《介護保険法》及びその待遇に関する給付規則」

発表者名:潘紅艷、李彦棋

論文掲載誌:「保険業リスクの観察」第5期

掲載時期:2023年12月8日